

### グローバルソリューション

# FTTH対応ASPで中小企業需要を開拓

グローバルソリューションでは昨年秋から、FTTHやADSLサービスに対応した丸紅のASPサービス「V-Service」の販売を強化。システム管理の手間を省きたい中堅中小企業をターゲットにシステム提案に乗り出している。

「今後のiDC、ISPビジネスは、回線販売やデータセンターの提供だけでなく、ネットワークと組み合わせアプリケーションまで提供するASP形態が主軸になるはず」と話すのは、グローバルソリューションの営業本部副本部長である古田行男取締役。同社は、丸紅が設立したネットワーク会社であるヴェクタントグループの1社でiDC、ISP事業を手がけている(www.vectant.co.jp)。

そのビジネスの中で、自社のインターネット接続サービスと、丸紅のブロードバンド対応ASP(Application

Service Provider)サービス「V-Service」を組み合わせ、販売強化に乗り出している

従来のASP事業は“アプリケーションを提供する”という点に重点が置かれていた経緯もあって、ASP事業者が接続回線やネットワークセキュリティのサポートを行うケースはまだ少なく、このトータルにサポートできないことが普及のボトルネックの1つになっていた。企業ユーザーでは、ネットワークとアプリケーションを個別に契約すると障害時の切り分けなどが難しく、両者をまとめて利



グローバルソリューション  
営業本部副本部長  
古田行男取締役

用したいというニーズが高まっていたのである。

この点に着目し、V-Serviceでは、2001年12月から提供してきた主力メニューである「V-Service for Exchange2000」によるマイクロソフトのグループウェア「Exchange2000」のASP対応に加え、2002年秋からNTT東日本/西日本の「Bフレッツ」や「フレッツADSL」などのアクセス回線に対応。さらに、グローバルソリューションがVPN装置と組み合わせたインターネット接続サービスとV-Serviceを組み合わせることで、アプリケーションとネットワークをトータルに提供しようと考えたわけだ。

古田取締役は、「FTTHやADSLなどブロードバンドサービスとVPN、ASPを組み合わせることで、コストをかけずにネットワークからアプリケーションまでトータルに提供することができた。ユーザー側のシステム運用の負担を大幅に軽減できることから、システム運用で頭を悩ます中堅中小企業ユーザーに積極的に販売していきたい」と話している。

### 3つの仕組みでモバイル対応

V-Serviceの特徴は、セキュリティ対応、設定機能「V-Frame」、

モバイル対応の3点である。

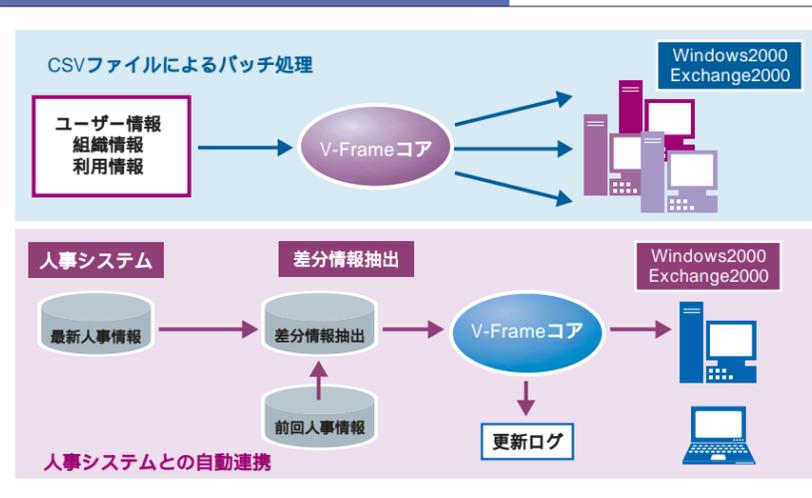
は、インターネットを経由するためには欠かせないもの。リモート監視機能に優れたウォッチガード社のVPN装置「WatchGuard Vclass」を組み合わせることでIPsecベースのVPNを提供し、インターネット経由でも安全な通信を実現している。

のV-Frameとは、V-Serviceのオプションメニューとして位置付けられ、マイクロソフトのディレクトリサービス「ActiveDirectory」に登録するユーザープロフィール情報を、Webブラウザ経由やバッチ処理により、クライアントから操作できるようにした機能である。人事異動に伴うユーザー設定変更作業は情報システム部門にとって大変手間がかかるものだが、V-Frameは一般の事務社員でも簡単に操作できるため、システム担当者の負担を一気に解消できるという。

のモバイル対応では、3つの方法をサポートしている。1つがマイクロソフトのWebブラウザ上でOutlookを利用できるサービス「OWA(Outlook Web Access)」に対応したもの。PDAで利用する場合はブラウザ処理に負荷がかかるという欠点もあるが、添付ファイルなどOutlookの機能をフルサポートしている点が特徴。主に自宅からのノートPC利用を想定している。

2番目は、丸紅テレコムの手帳型携帯電話向け転送メールサービス「テル・メソッド(TEL METHOD)」を利用したもの。長いメールなどを自動分割したり、飾り文字などを削除しコンパクトにしたメールを携帯電話に転送

図2 V-Frameのユーザー管理の仕組み



する。着信通知を行えるため、緊急連絡などで威力を発揮するものといえよう。

3番目が、ピーピーシステムの携帯電話やPDAに対応したミドルウェアサーバー「ExLook(エクスルック)」を活用したものである。ExLookは、携帯電話やPDAからExchangeのメールをチェックできるようになるだけでなく、スケジュール確認などにも対応しており、手軽に使えることから、人気が高いという。

### ハウジング型で大規模企業にも

グローバルソリューションでは、V-Serviceのターゲットユーザーとして、最も費用対効果が表れやすい従業員100~500名規模の企業を想定している。

なかでも順調に導入が進んでいるのが、WindowsNTのサポート期限が迫っているユーザーだという。新しくサーバーをリプレースすると、ディレクトリサービスなどを含めれば数千万円ものコストがかかってしまいが、ASPなら初期費用不要ですぐに

導入できる。

1000名を超えるような大規模の企業では、自社サーバーを導入するほうが1人当たりのコストを抑えられるケースもあるが、その場合、V-Serviceをハウジング形態で提供することで自社システム構築にも対応できるという。

さらにメニューの充実を図るため、グループウェア機能に加え、シーアイエス社の「CNAP Workflow Pro for .NET」を活用することで、ワークフロー機能にも対応した「V-Service For Workflow」も発売している。CNAP Workflow Pro for .NETは、日本固有の複雑な承認手続きにも対応したワークフローソフトで、このソフトをASPに対応させたものだ。古田取締役は、「最も汎用的なアプリケーションとして、グループウェアとワークフローに対応した。今後は、既存の基幹システムもV-Service上で利用できるように、業務アプリケーションと連携できるミドルウェアのサポートも行いたい」と話している。